

※文字起こしには AI を利用しております。漢字の誤変換等があるかもしれませんが、あらかじめご了承ください。

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

1（１）大阪府識字・日本語教育の推進に関する基本的な方針の策定について

このたび、「大阪府識字・日本語教育の推進に関する基本的な方針」を大阪府として策定いたしました。

府内では、外国人住民のみならず、さまざまな事情により十分な教育機会を得ることができなかった方々が、地域の識字・日本語教室や夜間中学などで学んでおられます。

日本語の会話や読み書きに困難を抱える人々が、ともに学び、ともに暮らすことのできる社会の実現をめざし、外国人・日本人を問わず、すべての学習者を対象とした「識字・日本語教育」の方針となっております。

方針の策定にあたっては、国の「日本語教育の推進に関する基本的な方針」をふまえるとともに、大阪府のこれまでの識字施策や在日外国人施策との整合を図りながら検討を進めてまいりました。

内容としては、識字・日本語教育の基本理念や推進の方向性を示すとともに、外国につながる幼児・児童・生徒、留学生、労働者、地域で学ぶ人々など、それぞれの状況に応じた学習機会の充実、支援体制の整備、府民理解の促進、関係機関の連携などについて整理しております。

今後は、本方針を通じて、すべての人が学ぶ権利を保障され、多様な人々が地域社会の一員として安心して暮らし活躍できる共生社会の実現をめざしてまいります。

2（１）教員スタートアッププログラムについて

大阪府教育委員会では、本府の特色ある教育を担う人材を確保するため、多様な採用活動を実施しているところですが、教員志願者数は減少傾向にあり、講師人材も不足しています。

このため、働き方改革や処遇の改善を積極的に進め、教職の魅力化に取り組むとともに、先生になろうと決めている方や、まだ迷っている方に向けて、大阪府の公立学校で先生として働く魅力や実際の学校現場について、見て、知っていただく機会をたくさん用意しています。

②について、具体的には、教員採用志願者向けのものとして、「大学１、２年生向け出前講座」をこの秋に初めて開催するほか、先月の記者会見でもご紹介しましたが、来週 7 月 28 日火曜日には高校生向けイベント「教育フェスティバル」も新たに実施します。記者の皆様も是非お越しください。

また、講師希望者向けのものとして、講師登録説明会などの、開催数や開催場所を充実させています。

この中から、本日は、「教員スタートアッププログラム」について、ご紹介します。

「教員スタートアッププログラム」は、教員免許状はあるものの教職に就いたことがない方や、教職から長く離れている方を主な対象として、学校現場で働くことの、より具体的なイメージや関心を持っていただくために、今の学校の様子を研修形式で学んでいただく取組みです。

先月 6 月に、今年度の第 1 回めを開催したところ、大変好評をいただきました。

第 2 回は、9 月 8 日・火曜日の夜間にグランフロントで、第 3 回は、9 月 10 日・木曜日の夜間にあべのハルカスで開催します。夜間での開催は初めてでございます。

申込受付は、本日より府のホームページで開始していますので、これまで参加できなかった方を含め、ぜひお気軽にお

申し込みください。

なお、府教育委員会では、「大阪府公立学校教員ポータルサイト」にて、実際に現場で働く先生の声や、私からのメッセージを動画で紹介しているほか、講師登録についても随時受け付けています。ぜひそちらもご覧ください。

3（１）第１回 OSAKA 小学生しおりコンテストについて

大阪府教育庁では、「第１回 OSAKA 小学生しおりコンテスト」を開催いたします。

自分が読んだり、読んでもらったりしておもしろかった本や、感動した本をほかの人に紹介するためにしおりを作成していただきます。

しおりは、絵と短い文章で表現します。

令和８年７月２１日火曜日から、９月１１日金曜日まで、作品を募集しています。

低学年の部と高学年の部のそれぞれから、教育長賞と最優秀賞に選ばれた作品を実際のしおりにして、府内の公立図書館や学校図書館などで配布します。

小学生のみなさん、どうぞ奮ってご応募ください。

3（２）「OSAKA キッズプログラミングコンテスト 2026」について

今年度も小学生を対象としたプログラミングコンテスト「OSAKA キッズ プログラミングコンテスト」を開催いたします。

このコンテストは、令和３年度に開始し、令和４年度には、府教育委員会と株式会社 CA Tech Kids（シーエテック キッズ）様で事業連携協定を結び、協力して大会を運営しているところです。

大阪府内在住または大阪府内の学校に通う小学１年生～６年生の児童を対象として、コンピュータプログラミングを用いて制作したオリジナル作品を募集しています。

今年度のコンテストの作品テーマは、「みんなでつくろう！やさしいスマートシティ大阪！」です。

募集期間は、７月１日（水）～９月３０日（水）で、エントリー方法は、専用 WEB フォームからの申込みとなります。

１人でも多くの児童が当コンテストに積極的に参加できますよう、お知り合いの方へお声かけいただけますと幸いです。

4（１）大阪私立学校展について

８月１５日、１６日に、大阪私立中学校高等学校連合会が主催する大阪私立学校展が開催されます。

来春募集を行う、府内全日制の私立中学・高校全校が一堂に集り、学校の魅力や特色を紹介する大規模なイベントとなっており、参加者は、各学校のブースを訪れ、学校の特色や入試制度について直接話を聞くことができます。

大阪府のブースでは、私立高校等の授業料無償化制度に関する相談も受け付けています。

詳細については、大阪私立中学校高等学校連合会にお問合せください。

5（１）第３４回大阪府産業教育フェアについて

本イベントは、大阪府内の産業教育を実施している農業・工業・商業等の高校で学ぶ生徒たちが、日ごろの学習成果をもとに、府民の方に産業教育の魅力を伝えることを目的として、例年開催しているものです。

今年は、８月３０日（日曜）に、梅田駅界隈にある大阪工業大学梅田キャンパス O I T（オーアイティー）タワーにて開催いたします。

イベント内容につきましては、実業高校生等が実演するものづくり体験として、レーザー加工機等を使用したキーホルダー製作やフラワーアレンジメントなどのワークショップ、課題研究で製作したクレーンゲーム操作体験、ドローン操作体験や、V R でのパワーショベル操作体験などに加え、農業高校における朝とれ野菜や各種加工品の販売、府内公立

中学校の生徒が技術・家庭科の授業等で製作した木材加工品や被服などの展示も予定しています。

また、今年度からの試みとして、実業高校に在籍する生徒たちによる「生徒実行委員会」が組織され、生徒が「届けたい」と考える実業高校の魅力発信のイベントも予定しています。

入場自由、参加費無料でどなたもお越しいただけるイベントで、今後、府立学校の魅力発信 SNS 等で出展内容の紹介をしてまいりますので、ぜひ多くの方々に、産業を学んでいる生徒たちの生き生きとした姿を見に来ていただきたいと思っております。

5（2）OSAKA 共創 LAB について

府立学校産学官共創教育モデル事業「OSAKA 共創 LAB」のキックオフイベントを、明日 7 月 25 日、大阪公立大学森之宮キャンパスにおいて開催します。

「OSAKA 共創 LAB」は、府立学校の生徒が学校や学科の枠を超えてチームを編成し、企業や大学と連携しながら、社会課題の解決や未来社会の実現につながる製品やサービス等の開発に挑戦する新しい学びのプロジェクトです。

生徒たちは、自らが「実現したい未来」をテーマに掲げ、3 年間にわたり、アイデアの創出から試作、検証、さらには社会実装に向けた取組みに挑戦します。

本事業を通じて、生徒一人ひとりの得意分野や興味・関心を生かしながら、新たな価値を創造できる人材を育成するとともに、事業後は、その成果やノウハウを府立学校全体へ展開し、大阪発の新しい学びのモデルの構築につなげてまいります。

明日開催するキックオフイベントでは、参加する生徒たちが大阪公立大学に集まり、「高校生自身が考える未来の社会像」や「自分たちの手で実現したい社会」について思いや考えを共有します。また、革新的な事業を展開する株式会社トリコロジックの西尾代表取締役からご講演いただき、生徒たちが未来社会の実現に向けた挑戦へのインスピレーションを得る機会とします。

このキックオフイベントは、生徒たちが学校の枠を超えて出会い、未来を語り、共創の第一歩を踏み出す記念すべき場となります。ぜひ多くの報道機関の皆様にご会場へお越しいただき、生徒たちの挑戦の第一歩と、大阪から始まる新しい学びの姿をご取材いただきますようお願いいたします。

5（3）おおさか SafetyBicycle つながるサミットについて

令和 6 年度、高校生世代の自転車を取り巻く社会情勢が変化していることをふまえ、生徒が主体的にヘルメット着用を含めた自転車の安全利用について「考え、学び、行動する」ことを目的とし、大阪府教育庁と大阪府警察本部交通部が連携・共同して立ち上げた「Safety Bicycle（セーフティーバイシクル）推進校」プロジェクトの取組みとして、昨年度に引き続き「おおさか SafetyBicycle つながるサミット」を開催いたします。

フリップをご覧ください。

今年度は 7 月 31 日金曜日、テーマを「交通反則通告制度（青切符）の導入を受けて」に設定し、ホテルアウリーナ大阪において、開催します。

昨年度は、府内 18 校 79 名の生徒の参加でしたが、今年度は、昨年度を上回る 34 校 138 名の高校生が集まる予定です。

自分と他人の命を守るためにはどうしていきべきかななどの議論がされる予定ですので、記者の皆様には、高校生が議論を通じて、社会課題に向き合い、クリエイティブな発想や交通安全について日頃、感じていることを発信する様子などを、ぜひとも取材いただければ幸いです。

フリップ 2 枚めをご覧ください。

この SafetyBicycle 推進校の取組みの一環で、みどり清朋高校と金光藤蔭高校の 2 校がヘルメットメーカーである

OGK カブトと連携した取組みを昨年度、実施しました。

この度、それぞれの生徒が考えたカラーの自転車ヘルメットが OGK カブトより販売されます。

「みどり」がスクールカラーのみどり清朋高校は、グリーン系を、「藤色」がスクールカラーの金光藤蔭高校は、「さくら色」となりました。

若者がヘルメットをかぶってもオシャレに見える、制服にも合うよう、艶消しのマットを生徒自身が選んだと聞いております。

今後は、企業と連携し、このヘルメットを利用して着用啓発・広報活動にも携わっていく予定です。

ヘルメットの購入を検討されている方がいらっしゃいましたら、大阪の高校生が選んだカラーをぜひ候補の一つに入れていただければ幸いです。

質疑応答

●校長マネジメント経費について

（読売新聞）

先ほどの発表内容とは少し異なりますが、教育庁の施策について水野教育長のお考えを伺います。

まず、校長マネジメント経費についてです。先日プレゼンテーション審査が行われ、事業も決定しました。

校長や教員が自ら教育委員会に対してプレゼンテーションを行う興味深い取り組みだと思いますが、この事業の意義と効果についてどのようにお考えでしょうか。

（水野教育長）

経営推進費についてですが、「学校に十分な予算があるので問題はない」というケースはほとんどありません。多くの学校経営者は、予算があれば学校をより良くできると考えています。

ただし、単に予算を配分するだけでは、何に使うのかが曖昧になる場合があります。そのため、各学校にしっかりと経営推進費についてプレゼンテーションを行っていただき、私たちも「こういう使い方ができるのではないか」「この方法では効果が薄いのではないか」と議論しながら審査を行っています。

もちろん予算が付くことも大切ですが、私が重視しているのは、学校のリーダーがどのような学校をめざすのかというビジョンを教職員に示す機会になることです。

そのビジョンを共有し、どのように実現していくのかを教職員全体で考える。その過程がプレゼンテーション資料となり、当日の発表につながります。予算獲得だけでなく、組織づくりという意味でも大切な取り組みだと考えています。

（読売新聞）

今年度審査を行い、来年度から始まる 2000 万円規模の新しい事業について伺います。校長マネジメント経費の進化版のような位置付けだと思いますが、2000 万円という大きな金額を設定した狙いと期待する効果を教えてください。

（水野教育長）

学校がビジョンを示し、課題を改善したり、新しい学びのための設備を整備したりする取り組みについては、これまで上限がおおよそ 400 万円程度でした。

しかし、さらにふみ込んだ取り組みを実現しようとすると、1 件当たり 2000 万円程度は必要ではないかという議論がありました。

今回の魅力化事業では、学校が実現したいことを進めるために、見積もりの取得や事業者との調整など様々な手続きが必要になります。2000 万円規模になると、それを学校だけで進めるのは負担が大きいため、私たちが伴走しながら支援していきます。

そのため、学校の意向をそのまま実現するというよりも、専門家や外部の視点も加わった改革予算として理解していただければと思います。

（読売新聞）

これまでの 500 万円規模では実現できなかったような、より斬新なアイデアを期待しているということでしょうか。

（水野教育長）

はい。その点を期待しています。

●国際ナショナルスクール設置の緩和について

（読売新聞）

もう 1 点伺います。

本日パブリックコメントが公表された国際ナショナルスクール設置要件の緩和についてです。国も通知を出しており、他の自治体でも取り組みが進んでいますが、改めて要件緩和についてのお考えをお聞かせください。

（水野教育長）

国際ナショナルスクールは私学課の所管であり、教育委員会というより教育庁側の話になりますが、大きな方向性として、大阪の設置要件はこれまでかなり厳しく設定されていました。

今後はそれを緩和していく流れになると考えています。

理由としては、万博を経て国際都市をめざす大阪において、高度外国人人材を呼び込むためには、その子どもたちが通える教育環境が必要だからです。

現状では、神戸など他府県の学校を選択せざるを得ないケースもあると聞いています。将来の大阪の都市像を考えたとき、高度外国人人材の子どもたちが安心して通える環境を整える必要があり、その観点から国際ナショナルスクール設置要件の緩和について議論を進めています。

●大阪都構想について

（共同通信）

発表内容とは別になりますが、大阪都構想について伺います。

7 月 17 日の法定協議会で事務分担のシミュレーションが示されました。教育分野では、教職員の研修や人事など、多くの業務が府側に集約されるようにも見えます。現時点で都構想に対する期待や懸念はありますか。

（水野教育長）

教育行政の視点で申し上げます。

現在の大阪市は政令指定都市として、教員採用や研修、配置に関する権限を持っています。

仮に 24 区ごとに分けるような仕組みになれば、それぞれに教育長や教育委員会が必要になり、採用や研修をどう担うのかという課題が生じます。その場合は広域行政が担う可能性もあるのではないかと注目していました。

ただ、現在議論されている案では、より大きな単位での区割りになると聞いています。仮に 4 つに分ければ政令指定都

市レベル、8 つでも中核市レベルの規模になります。

政令指定都市には採用権や研修権限がありますので、府が担うという議論にはなりにくくなったのではないかと見ています。

ただし、これは政治家の皆さんが議論されている段階ですので、私自身が具体的な情報を持っているわけではありません。決まった制度の中で大阪市がどのように対応していくのか、同じ行政の立場として注目しています。

●教員の採用確保について

（産経新聞）

教員の採用確保について伺います。

今回、高校生向けイベントを実施されますが、一般的には教職課程の大学生が主な対象になると思います。高校生まで対象を広げる狙いを教えてください。

（水野教育長）

教員免許は大学で取得しますが、大学に入ってから教員を目指す人は意外と少なく、高校時代に「先生になりたい」という思いを持ち、その結果として教員免許を取得できる大学を選ぶケースが多いと考えています。

そうであれば、高校生に対して「教員という仕事は良い仕事だ」「楽しい仕事だ」ということを早い段階から伝えたい。

高校生は日々、実際に授業をしている先生方と接しています。その段階でのアプローチを強めていきたいという考えです。

（産経新聞）

先生になりたい生徒向けのイベントという印象がありますが、まだ教職に興味を持っていない生徒への裾野を広げる取り組みは考えていますか。

（水野教育長）

イベントには教員志望の生徒だけでなく、友人に誘われて来る生徒もいますので、一定の広がりはあると思います。

ただ、一番大切なのは、教員をめざしていなかった人が先生になりたいと思うきっかけは、日々接している先生方の姿だということです。小学校、中学校、高校で出会う先生を見て、「素晴らしい先生だ」「自分もあになりたい」と思う、日々の暮らしの中での積み重ねが本質だと思っています。

●自転車ヘルメットデザイン創作プロジェクトについて

（教育長発言・補足）

今回発表した施策には共通点があります。それは、私たち大人がすべてを決めてしまうのではなく、ある程度、生徒たちの自主性に委ねていこうという考え方です。

自転車ヘルメットについても同様で、高校生がヘルメットを着用しない理由を聞くと、「格好良くないから」という意見が多くありました。それならば、大人が考えるのではなく、高校生自身に格好良いデザインを考えてもらおうということになりました。今回採用した色や質感についても、生徒たちから「柔らかな中間色で艶消しの方が制服に似合う」といった意見が出されました。私たちには、なかなかない発想です。

今回の「おおさか SafetyBicycle つながるサミット」においても徐々に参加者が増えてきています。私たちの意図には、安全第一で皆にヘルメットを装着してほしいというだけでなく、こうした生徒主体の取り組みを社会実装することで、生徒たち自身の意見によって社会が変わっていくという実感を持ってほしいという思いがあります。このサミットからの広がりや、大阪でのヘルメット着用率が3 %から5 %、10 %へと向上していき、社会が変わっていく手応えを生徒たちに実感して

もらえたら良いなと思っています。

一見すると単なるヘルメットに見えるかもしれませんが、その背景にはこうした教育的な狙いもあります。

（記者から通常のヘルメットの色やつや・デザイン・価格について質問があり、一般は白か黒だが、今回スクールモデルとして新たに「マットサクラ」「マットグリーン」の色が追加されることや、価格が 5,800 円程度であることが紹介された）

ちなみに、みどり清朋のスクールカラーが緑ということでヘルメットのカラーも緑にしておりますが、金光藤蔭高校は藤色がスクールカラーですが、金光桐蔭高校は「マットなオシャレ感のある色」が制服に合うという理由で桜色が選ばれました。最近の高校生や若者たちを見ていると、身に着けるものに自分の好みやこだわりを持っている子が多いです。自分の推しや好きなものを身に着けて、きもちが前向きになれるのであれば、ヘルメットも「危ないからかぶりなさい」ではなく、「格好いいからかぶりたい」と思えるものに、生徒自身が選びたいくなる仕掛けづくりが大切だと考えます。

● OSAKA 共創 LAB について

（教育長発言・補足）

万博が終わった今、私たちは『万博で終わらせたくない』という思いを持っています。

万博では、高校生チームというものを作って学校の枠を超えて集まり、ダンスや企画づくりなど様々なプロジェクトに取り組みました。それが生徒たちにとって大きな成長の機会になったと捉えています。

万博のレガシーというと大屋根リングのような施設が注目されますが、教育の視点では、学校の枠を超えて出会ったオール府立高校の高校生たちが一つのプロジェクトを成し遂げた経験こそが最大のレガシーだと思っています。

その考え方を継承するために「OSAKA 共創 LAB」を立ち上げます。

明日のキックオフでは、現時点で府立高校 29 校から 88 名の生徒が参加予定です。

参加理由は様々でしょう。社会を変えたいという生徒もいれば、何か新しいことに挑戦したいという生徒、先生に勧められて参加した生徒もいると思います。

そうした生徒たちが企業などの専門家と協働しながら、自分たちの理想の未来を自分たちでつくっていくという、その手応えを高校生に実感してほしいと思っています。

会場は大阪公立大学森之宮キャンパスです。

事業期間は 3 年間で、今年度は 7 回のワークショップを実施する予定です。

活動そのものにも意義がありますが、生徒たちが生み出したものが実際に社会をより良くする第一歩になればうれしいと思っています。継続的に実施していきますので、ぜひ注目していただければと思います。

● インターハイについて

（教育長発言・補足）

いよいよインターハイが始まります。

大阪ではアーチェリー、ソフトボール、バスケットボール、卓球の 4 競技が実施されます。

暑い中ですが、高校生たちにとってかけがえのない経験となる大会です。ぜひ応援していただければと思います。

（これは記者会見の概要であり、発言内容をそのまま記録したものではありません。）